福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2020 年 9 月 18 日

社会福祉法人川崎立正福祉会
理事長 小林 慈瑛 様

〒 101-0047

所在地 東京都千代田区内神田3-2-14 コスモスビル2階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 東京都第三者評価機関 東京都機構 12 ― 218

電話番号 03-3251-4150

代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	評価者番号
	①	筒井 正人	経営	H1701016
	②	福島 正晃	福祉	H1801066
	③	伊藤 祐基	福祉	H1901016
	④	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	木月保育園			
事業所連絡先	〒	211-0025		
	所在地	神奈川県川崎市中原区木月4-42-14		
	TEL	044-433-1958		
事業所代表者氏名	川崎立正福祉会 理事長 小林 慈瑛			
契約日	2020 年 5 月 6 日			
利用者調査票配付日(実施日)	2020 年 6 月 16 日			
利用者調査結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
自己評価の調査票配付日	2020 年 6 月 16 日			
自己評価結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
訪問調査日	2020 年 7 月 17 日			
評価合議日	2020 年 7 月 17 日			
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和2年度】

2020 年 9 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 101-0047

所在地 東京都千代田区内神田3-2-14 コスモスビル2階

評価機関名 株式会社 評価基準研究所

認証評価機関番号 機構 12 ― 218

電話番号 03-3251-4150

代表者氏名 代表取締役 谷口仁宏 印

以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号		評価者氏名	担当分野	修了者番号
	①	筒井 正人	経営	H1701016
	②	福島 正晃	福祉	H1801066
	③	伊藤 祐基	福祉	H1901016
	④	谷口 仁宏	福祉、経営	H0305043
	⑤			
	⑥			
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	木月保育園			
事業所連絡先	〒	211-0025		
	所在地	神奈川県川崎市中原区木月4-42-14		
	TEL	044-433-1958		
事業所代表者氏名	川崎立正福祉会 理事長 小林 慈瑛			
契約日	2020 年 5 月 6 日			
利用者調査票配付日（実施日）	2020 年 6 月 16 日			
利用者調査結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
自己評価の調査票配付日	2020 年 6 月 16 日			
自己評価結果報告日	2020 年 7 月 7 日			
訪問調査日	2020 年 7 月 17 日			
評価合議日	2020 年 7 月 17 日			
コメント（利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入）	利用者調査・職員調査は、WEBでの調査を実施し、携帯電話・スマートフォン・パソコンによる回答を中心とし、紙ベース希望者には従来型の紙による回答も可能とした。利用者調査開始時には、調査の趣旨や手法などに関する詳細な説明と個別のID・パスワードを記した案内状を封緘封筒に入れて全家庭に配布し、職員向けにも同様の案内状を配布した。経営層には各標準項目の自己評価を的確に行うための独自資料を提供するなど、事業所向けの配慮も行っている。			

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。

本報告書の内容のうち、
- ○ 機構が定める部分を公表することに同意します。
- ○ 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- ○ 別添の理由書により、公表には同意しません。

年 月 日

事業者代表者氏名 印

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　　令和2年度

《事業所名: 木月保育園》

1	**理念・方針 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）
	（理念）気付きと意欲を大切にします （方針） 1. 仏教精神に基づく保育 2. 児童の健康増進を第一とする保育 3. 自主性を育てる保育
2	**期待する職員像 （関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・園の理念、保育方針、ルールを理解して保護者や子ども達に接していく、又職員の質の向上、能力の向上について 自ら研修等に参加したり学んだことや得意とする技術や能力を園でも生かすような意識を持たせている。
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・子ども達一人一人を「木月の職員」みんなで育む事を意識して職員同士の和む雰囲気で働いてほしい。 ・主任、クラスリーダー、プロジェクトリーダー、行事リーダー等の役割を大切にし、皆の意見をまとめていく力を身に付けてほしい。 ・お互いに意見が言い合える場を与え、各職員が力を発揮してほしい。

《事業所名：木月保育園》

調査対象	調査開始時点での本園の利用世帯106世帯（126名）を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。
調査方法	調査項目は共通評価項目に準拠した。回答は、弊社オリジナルWEBベース方式（パソコン・携帯・スマホ）で行いWEB回答できない保護者には紙ベースの回答を、園で回収・弊社宛てに郵送してもらい集計に加えた。

利用者総数	126
利用者家族総数（世帯）	106
共通評価項目による調査対象者数	106
共通評価項目による調査の有効回答者数	72
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	67.9

利用者調査全体のコメント

総合的な感想では、園に対する満足度は「大変満足」が69．4%、「満足」が30．6%の合計100%であり、保護者から園への信頼は、非常に高い数値となっている。設問別でも、「子どもの心身の発達」と「園での活動が子どもの興味や関心を持って行える」で100%の利用者が満足であると答えている。また、「提供される食事」、「自然や社会と関わる機会」、「職員の子どもの気持ちを大切にした対応」などで95%以上の利用者満足があった。それ以外のすべての項目でも高い満足度であり、今後は今回保護者から出された個別意見の対応可能な事柄へのさらなる配慮や説明を充実させていただくことに期待したい。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	72	0	0	0
「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0 %という結果だった。自由意見では、「先生の声掛けなどに温かさを感じ、朝も嫌がることもなく毎日楽しそうに通っていると感じる」、「園児同士や保育士との日々の関わり合いの中で、心身ともに成長していると実感しています」、「様々な活動も提供していただきつつ、子どもの遊びを大切に保育してくださっていることを感じています。子どもの「やりたい！」「知りたい！」を受け止めてくださっているのだな～と思うこともあり、感謝でいっぱいです」などの意見があった。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	72	0	0	0
「はい」が100%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が0 %という結果だった。自由意見では、「異年齢の子との交流の機会もあり、好奇心を満たしてくれるさまざまな遊びを経験していると感じる」、「その時やりたいことを選べるようにしていただいているので、その日の気分に合わせておこなっていただいていると思います」、「リトミックのような活動だけでなく、農作業のような活動が楽しくて活き活きと話してくれます」などの意見があった。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	70	0	2	0
「はい」が97．2%、「どちらともいえない」が0%、「いいえ」が2．8 %という結果だった。自由意見では、「おやつも手作りのものが多く、給食も0歳の時には発達に合わせた調理方法を工夫してくださり、咀嚼の様子を栄養士が見にくるなど非常にきめ細やかな配慮がある」、「和食を中心とした健康的でバランスの取れた手作りの食事・おやつの提供に力を入れていると感じています」、「家庭では作れないような主菜や副菜も作ってもらえるため、食に関する知識も広まって助かります」などの意見があった。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	71	1	0	0
「はい」が98. 6%、「どちらともいえない」が1. 4%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「園外への散歩で桜や紫陽花など季節の花々を楽しんだり、アリやダンゴ虫などの身近な昆虫を観察したり、園庭で季節の野菜を育てたりと、自然との触れ合いは多いと思います」、「季節の行事遊びや集会の機会があり、日本の文化などを小さい子にも伝えていただいており、非常に良い」、「お散歩をしていただいているので、おててつないで歩くなどの事は、理解し、行動しているように感じます」などの意見があった。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	52	7	0	13
「はい」が72. 2%、「どちらともいえない」が9. 7%、「いいえ」が0%、非該当が18. 1%という結果だった。自由意見では、「スポット的な延長も、柔軟に対応してくれています」などの意見があった。「これまで、急な残業をしたことがないので、非該当とします」という意見もあったことなどから、利用したことのない保護者からは非該当の回答が多かったものと考えられる。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	56	14	2	0
「はい」が77. 8%、「どちらともいえない」が19. 4%、「いいえ」が2. 8%という結果だった。自由意見では、「登園した時に地震があり、園内放送での安全確認や保育士さんの指示で子供達がお部屋で集まっているのをみて、しっかりとした手順の確立、訓練がされていると思いました」、「交通安全指導や、地震・火災等の避難訓練等を定期的に実施してくれています」、「入口がキーで不審者の侵入などへの対策は出来ています。 大通りから一本入った所ですが、日中の人通りもあるため、地域の目も防犯役割となっている」などの意見があった。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	53	16	1	2
「はい」が73. 6%、「どちらともいえない」が22. 2%、「いいえ」が1. 4%、非該当が2. 8%という結果だった。自由意見では、「年初に一年間の大まかな日程が提示されるので、参加しやすいです」、「自粛で行事がまだ行われていないのでわかりませんが、夏祭りは子供たちだけで行うという話を聞いているので、そういった配慮もなされていて嬉しいです」などの意見があった。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	64	7	1	0
「はい」が88. 9%、「どちらともいえない」が9. 7%、「いいえ」が1. 4%という結果だった。自由意見では、「子供のことをよく見てくださっていることは日々伝わってくるので、気軽な相談も、少し込み入った相談でも、きちんと対応してくれる信頼関係があると思います」、「先生方は気さくに声をかけてくださりお話しする機会をいただけています。クラスの先生に限らずいろいろな先生に見守られていることに安心感を覚えます」、「話しかけるとお忙しいにも関わらず必ず丁寧に対応してくださり、頭が下がります」などの意見があった。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	60	12	0	0
「はい」が83. 3%、「どちらともいえない」が16. 7%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「おもちゃなどもいつも綺麗に片付けられていて、清潔感を感じます」、「降園時に、教室や階段等のスペースを丁寧に掃除している姿をよく見かけます。きちんと清潔に保ってくださっています」、「教室内は整頓されていると感じます。唯一思ったのは職員室にかなり物が溢れていて整理ができてないのではと感じています」などの意見があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	64	8	0	0
「はい」が88. 9%、「どちらともいえない」が11. 1%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「全体的にどの保育士や職員の方々も、適度に親しみのある態度で、話しやすい雰囲気です」、「基本的に、話しやすく、丁寧に話も聞いてくれています。 自分がサービス業の為気になったのかもしれませんが、先生により、話しやすさの差も感じました」などの意見があった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	64	6	1	1
「はい」が88. 9%、「どちらともいえない」が8. 3%、「いいえ」が1. 4、「非該当・無回答」が1. 4%%という結果だった。自由意見では、「熱を出してお迎えに行った時、適切なアドバイスをいただき優しく声がけをしてもらいました」、「急な発熱時等の対応も適切にしていただいていると思います」、「ちょっとしたケガでも報告してくれているので安心して預けられます」などの意見があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	60	7	1	4
「はい」が83. 3%、「どちらともいえない」が9. 7%、「いいえ」が1. 4%、「非該当・無回答」が5. 6%という結果だった。自由意見では、「子供の気持ちを尊重しつつ、きちんと子供自身が納得できるように対応してくれていると思います」、「お友達を噛んでしまった時や、お友達からひっかかれた時など、キチンと指導していただいていました」、「先生方を信頼してお任せしています」、などの意見があった。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	69	3	0	0
「はい」が95. 8%、「どちらともいえない」が4. 2%、「いいえ」が0%という結果だった。自由意見では、「ニコニコしてましたよーなど、よく楽しんでる話を教えてくれています」、「よく様子を見ていただいていると思います」、などの意見があった。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	59	5	1	7
「はい」が82. 0%、「どちらともいえない」が6. 9%、「いいえ」が1. 4%、「非該当・無回答」が9. 7%という結果だった。自由意見では、「特に何も言われていませんが、守られていると思います」、などの意見があった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	60	11	1	0
「はい」が83. 3%、「どちらともいえない」が15. 3%、「いいえ」が1. 4%という結果だった。自由意見では、「毎日、アプリを通じてクラス全体の様子、そして個人の様子を知らせてくれており、分かりやすいです」、「毎日の連絡帳がきめ細やかで、保育の様子もわかりやすい」、「連絡帳アプリでしっかりと写真を添えて伝えていただいています」などの意見があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	57	10	0	5
「はい」が79. 2%、「どちらともいえない」が13. 9%、「いいえ」が0%、「非該当・無回答」が6. 9%という結果だった。自由意見では、「質問をした際に、担当の職員が不在で回答が持ち越しになる場面はありますが、きちんと翌日等にフォローをしてくださっています」、「直接聞いたら答えてくれるが、担任と必ず会えるわけではないので連絡帳アプリでの返答がないととても時間がかかるような気がします」、などの意見があった。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	30	18	6	18
「はい」が41. 7%、「どちらともいえない」が25. 0%、「いいえ」が8. 3%、「非該当・無回答」が25. 0%という結果だった。自由意見では、「最初の頃に教えてくださいました」、「あまり困らないタイプなので、説明があったとしても記憶に残っていないのだと思います」、「特段、困った状況になった場面はありません」などの意見があった。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7）

No.	共通評価項目
1	カテゴリー1 リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　7／7

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している　　評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　　評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 経営層は、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　　評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

カテゴリー1の講評

園が大切にしている大きな理念を、共感しやすい言葉で明示し、全職員で共有している

「子どもと関わる時には、相手の子に対して、一人の人間として、子どもと接してください。小さいから、何も理解できないからと思うのではなく、その子一人ひとりを丸ごと受入れ、大切にするということです。この事はどの職員も絶対に忘れないよう保育をして下さい」。これは、職員が共有する理念の手引書「保育において大切にしてもらいたいこと」の一節だ。一人ひとりを大切に、真心を持って接していく。仏教精神をバックボーンにおきながら意欲と自主性を育む本園の保育理念を親しみやすい言葉で表現し、職員全員で共有している。

現場から出た意見や気付きを、園全体で検討し決定していくボトムアップの仕組みがある

「気づきと意欲を大切にしています」という明快な標語で、園は意欲と自主性を大切にする自らの理念を表明している。そしてこの考えは意思決定のプロセスにも敷衍されている。それがリーダー会議だ。経営層は経験と育成の視点から各クラスにリーダーを置き、リーダー会議を組織。保育の課題や行事など具体的なテーマについてリーダー会議で検討し、それを受け経営層が方針を決定していく仕組みになっている。一人ひとりの気づきと意欲が、園を動かすエンジンになっている。

保育について話し合う機会を大切にし、繰り返し話し合うことで理念を浸透させている

園の理念を実現するために職員が意識すべきルールとして園は、「待ってあげる保育」「褒める保育」「大声を出さない保育」の3つを上げている。これはルールというよりむしろ、保育者一人ひとりの心の持ち方を示すものといってよい。それを不断に意識するために、園が大切にしているのは、各クラスでの丁寧な話し合いだ。相互にヘルプを出しながら月に1～2回しっかりと時間をとって、各クラスで話し合う習慣を作っている。日常の保育の課題や気付きについて繰り返し話し合うことで、職員全員に園の理念を深く浸透させている。

2	カテゴリー2
	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行

サブカテゴリー1（2-1）

事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　6／6

評価項目1
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している
評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）について情報を収集し、課題やニーズを把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	○ 非該当

サブカテゴリー2（2-2）

実践的な計画策定に取り組んでいる　　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　5／5

評価項目1
事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している
評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	○ 非該当

評価項目2
着実な計画の実行に取り組んでいる
評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）の実現に向けた、計画の推進方法（体制、職員の役割や活動内容など）、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー2の講評

保護者会との連携の下、利用者の意向を丁寧に把握し、園の運営・改善に生かしている

開園以来続いている保護者会「師親会」との連携で、保護者の意見を丁寧に把握している。行事の際のアンケートでは、役員から保護者への（園の方針の）説明や、協働作業による意見の集約など、園の経営層と師親会の役員が協力している。こうした協働作業の積み重ねが、保護者の意向を丁寧に吸い上げると同時に、保護者一人ひとりの園の方針への理解を深めてきた。保護者との良好な協力関係を構築することで保護者の力を引き出し、園の運営を豊かにしている。

時間をかけて丁寧な年度移行の準備を行い、着実な保育の計画をたて実践している

新年度のスタートに向けて着実な計画をたてている。新クラスのメンバー職員は次年度のクラスの環境づくりや活動案など話し合いを重ね、必要な物があれば準備期間内に用意するなど、丁寧に準備をしていくという。保育計画についても、年・月・週案の各レベルで、その時期にやりたい活動や歌いたい歌など、具体的に考え計画している。現場の保育者が自らやりたいと思う（次年度の）プランを心に描き、楽しみながら立案した計画が着実に実践されている。

園の長期計画に基づく具体的な計画を立て、より自覚的に取り組んでいってほしい

本園の属する地域は、都心に近く住環境も良好な人気の住宅地。地域の発展はこれからも続きそうで、今まで園が地域に対して果たしてきた機能には、今後さらに発展的な形での継続が求められるだろう。本園の「気づきと意欲を大切に」という理念、大きな計画である「子ども像」も、毎日の保育の中での積み重ねで、健やかに自然と実現されてきているようだ。今後、この「子ども像」をかみ砕き、具体的な計画に落とし込んでいけば、より確実な計画の実現、保育の検証につながるだろう。

3	カテゴリー3
	経営における社会的責任

サブカテゴリー1（3-1）		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる	**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況**	**2／2**

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などを周知し、理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳を含む）などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。	○ 非該当

サブカテゴリー2（3-2）		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている	**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況**	**4／4**

評価項目1
利用者の意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用者の意向（意見・要望・苦情）に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	○ 非該当

評価項目2
虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー3（3-3）		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている	**サブカテゴリー毎の標準項目実施状況**	**5／5**

評価項目1
透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	○ 非該当

評価項目2
地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク（事業者連絡会、施設長会など）に参画している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー3の講評

自己評価の中で常に他者理解と受容の大切さを意識させ、倫理意識の向上に努めている

全ての職員に対して半年に1回の自己評価とそれに基づく園としての評価を行っている。自己評価のチェック項目は、日常の保育のスキルに係るものから、社会人としての規範意識を問うもの、チームの一員としての意識を問うもの、子どもや保護者への理解を問うものなど多岐にわたる。経験に応じて3段階あるチェックシートに通底するのは、子どもや保護者、そして同僚への理解と受容、協働の大切さという意識だ。この自己評価が定期的な振り返りや改善への機会作りとなって、職員の倫理向上につながっている。

地域との自然なつながりの中で園に地域の人たちを取り込み、地域の力を育んでいる

由緒ある古刹が母体である本園は、伝統的に地域との深いつながりを持っている。そうしたつながりを生かして、本園では、地域力を園に取り込み保育に厚みを持たせている。ボーイスカウトの子のボランティアや中学生の職場体験、地元町会の協力により伝承遊び体験などがそれだ。商店街や駅も近く、子どもたちの社会を広げる機会が充実している。昔から続く自然なつながりの中での相互協力と活性化。力みのない自然体の活動で、地域のつながりを創出し、活性化させることで地域への貢献を果たしている。

積極的な声掛けにより保護者を力づけながら、育児不安の解消や虐待防止に努めている

虐待防止の取り組みとして、着替えの際に体の状態を見る、衣服の清潔を確認する、給食の食べ方から飢餓状態にないか注意してみるなど、日常的な子どもの観察を習慣づけている。一時保育も盛んに実施しているが、一時保育に来る保護者についても、まず受け止め、励ます形で支援をしている。地域には子育て家庭が増加しており、未就園の家庭での保育の孤立化も心配される中、園庭解放などの際に園長は保護者に積極的に話しかけ、不安を軽減させているという。保護者を力づけながら支援する方法で、育児不安の解消や虐待防止に努めている。

4 カテゴリー4

リスクマネジメント

サブカテゴリー1（4-1）

リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 **5／5**

評価項目1
事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク（事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など）を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画（BCP）を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2（4-2）

事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員（実習生やボランティアを含む）が理解し遵守するための取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	○ 非該当

カテゴリー4の講評

現場の気づきを掬い上げ、園全体でリスクマネジメントに取り組んでいる

リスクマネジメントの面で本園の特長といえるのが、現場の気づきを拾い上げながら、毎日のルーティンにし安全管理を実践していること。防犯の訓練やプールの安全対策のほか、園庭の危険個所の拾い出しも、安全・防災、遊具といったプロジェクトチームが主体となり、問題点を見つけたり、改善点を考えたり、日常の対策をたてたりと、下から上がってくる形で毎日の安全維持活動が組み立てられ、実践されている。自らの気づきをはっきりとした形にし実行する。職員全員が意欲的に取り組め、見直しも自然にできる理想的な形である。

子どもの経験そのものを、安全に暮らすスキルに結び付けるよう工夫している

安全プロジェクトの記録を見た。例えば園庭の丸太の使用方法について具体的な留意点が記されている横に、「子どもだけで使ってもいいけど、大人がつこう！」と、子どもの活動を過剰に制限せずしっかりと職員が見守ろうという主旨の赤字が記されている。防災の活動では、テニスボールの上に段ボールをおいて、その上で揺れを体感する活動と、その際の子どもの反応が記されている。いずれも子どもの経験を大切にしたきわめて保育的な視点だ。子どもの遊びや活動から立ち上がったこまやかで具体的な安全対策は、子ども自身の危険回避力も育むだろう。

事業継続の視点を持った総体的な危機管理マニュアルを整備し、災害に備えている

危機管理マニュアルには、非常用の備品リストやAEDの使用法から、災害時の情報収集と発信、初期対応から後期対応までのフローチャート、復旧についての対策など、災害が起きた際に何を用いどうすべきかが一体的に示されている。災害の発生から収束時の事後復旧までをトータルに見据えたこの計画は、保育や給食など保育運営の継続に関する視点も加味されており、BCPとして災害へのより有効な備えになっている。

5 カテゴリー5

職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している

評点（○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）が職員に分かりやすく周知されている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望（キャリアパス）と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○ 非該当

評価項目3
事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成（研修）計画へ反映している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○ 非該当

評価項目4
職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇（賃金、昇進・昇格等）・称賛などを連動させている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど）を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

組織力の向上に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 3／3

評価項目1
組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー5の講評

職員の企画力を大切にし、子どもの経験を豊かにしながら職員のやりがいを高めている

それぞれ個性を生かすことで職員のやる気を高め、保育を厚くしていくことを心掛けている。その取り組みのひとつが誕生会の出し物。誕生日を祝うアトラクションが、保育者がそれぞれ自分の特技を披露する場になっている。劇、戦隊ショー、落語、漫才など、職員が自由に企画立案。何よりもの本人のワクワク感を尊重しつつ、子どものワクワク感・遊びへの発展を考えながら実践しているという。保育者の意外な技に子どもたちはときめき、楽しい活動につながっていくのだろう。子どもの経験を豊かにしながら、職員のやりがいを高める楽しい実践である。

チーム間の協働で自然に力を合わせ個を助けると同時に、組織全体の力を高めている

チーム保育のいいところは、さまざまな考え方、長所や特技などいい部分を集めてチームの力にできるところだが、ピンチになったときの対処も同様だ。例えば、特別な配慮が必要な子を受け持つ担任がちょっとキツそうだなと思ったら、すぐに各チームから人を出し、その子の「いいところ」を出し合い、複数の視点で見たその子像を共有すると同時に、その子を見ていくためのチーム間の連携について話し合いをするという。チームで個を助けているように見えるこのワークは、実は、チーム間の連携・共感の意識を生み、組織全体の力を高めているのである。

世代間の連携・協力が「生き方」としての仕事を可能にし、職員定着にもつながっている

園長は、「保育を仕事にしているのだから・少子化で人類が消滅に向かっている今だからこそ・いい仕事をしている人にこそ、子育てをしてほしい」と言う。実際本園では、育児後に職場復帰をし働き続ける職員も多く、子育てに入る職員を、他の職員が積極的に支え、補っていく風土が確立されているという。育児の経験は自らの仕事に役立つ上、その経験を仕事仲間に返すことでチームの力も上がる。保育という仕事と一個人としての生き方が密接に絡み合い、充実していく。このワークアズライフ的な好循環により、やりがいの向上と職員定着が実現している。

7	カテゴリー7
	事業所の重要課題に対する組織的な活動

サブカテゴリー1（7-1）
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている

評価項目1

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その1）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園の理念を保育環境の面で実現するために、美化委員・環境マイスターを設置。個々の力と組織力を高めながら、保育環境の向上につとめた。保育室や園庭には玩具や遊具、遊びを展開するためのスペースなどモノと場所の両面で環境が構成されているが、それが常に子どものワクワク感を引き出し、子どもの好奇心を誘い出す環境であり続けられるかどうかは非常に難しい問題だ。そこで本園では、理念として掲げる「自主性を育てる保育」への具体的なアプローチとして、環境の改善を組織的に行う取り組みを企画した。保育者の中からまず美化委員を選出し、委員が「なぜこれがあるのか」「なぜここでやるのか」「こうしたらいいのではないか」と、一つひとつのモノ・場所を検証していった。そして上がってきた課題や要望について、環境マイスターを務める主任が、子どもの動線や保育の計画の中での在り方など大きな目でアドバイスし改善案として立案、園長に上げ、環境改善を行った。小さなことを積み重ねて大きな動きにしていく。地道な取り組みが園全体の組織力向上と環境改善につながったことは非常に意義深い。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目１で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

現場の保育者に対しては、現場を検証して気づきを重ね、改善への糸口をみつける係＝美化委員という役割。主任に対しては、課題をまとめ、全体感の中で双方向的に議論しながら解決策をみつけていくファシリテーター的な「環境マイスター」という役割。こうした役割分担を決め、小さなことからコツコツと積み重ねていった手法を評価したい。環境改善を考えると一口に言ってもなかなか難しい。日常の保育を回している現場からは、どうしても「変えてしまうことへの心配」が生じがちなものだ。また指導者レベルだけで考えてしまうと、環境や活動のディテールに目が届かない場合もある。また園長のトップダウンで行う方法には、掲げる理想と現場との乖離という難題がつきまとう。理念を示す園長～引き上げる役割を果たす環境マイスター～現場を検証する美化委員という今回の三者三様の役割分担は、保育の環境を改善する際の、よくあるこうした困難をスマートに克服しながら、現場の保育者の力を高め、主任の聞く力、伸ばす力を高めた。食事の場所の変更も、この改善の一環。子どもたちが落ち着いて食事ができるようになったという。これからも持続していってほしい好循環である。

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている（その2）

前年度の重要課題に対する組織的な活動（評価機関によるまとめ）

園の理念をチームワークの面で実現するために、「元気が出るカンファレンス」を設け、配慮が必要な子、気になる子に対してどうしていくのか、チーム間の連携を強め、それぞれの気づきを出し合い、話し合うことで問題点と意識、具体的な取り組みを共有した。カンファレンスを定期的に行いながら、共有～計画～取り組み～検証～のサイクルを繰り返し、問題を改善していった。気になる行動のある子に対して、担任としてはどうしても「なぜそうしてしまうのか」「なんとかしなくては」と焦ってしまうもの。そんな担任に対して、カンファレンスでは、「どんな遊びをしているのか？」「安心できる場所はどこなのか？」といった、その子の状態に関する質問が出たという。毎日いっしょにいると意識しないこうしたルーティンも、質問されることで客観的に整理できることがある。また同時に、「その子のいいところはどこか？」というテーマで他チームの保育者からみたその子のストレングス（長所）を挙げていった。その結果、子ども一人ひとりを大切に、全員で連携して支える体制ができたという。気になるところばかりではなく「いいところ」を見つけていく。こうした手法はその子と担任を共に力づけたはずだ。

目標の設定と取り組み	● 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った ○ 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった ○ 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	● 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った ○ 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった（目標設定を行っていなかった場合も含む） ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	● 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた ○ 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない ○ 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目２で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

気になる子に対してどう接していくかというきわめて身近な課題に対して、園の理念に基づきながら、（その子を担当するチームの問題としてではなく）園全体、つまり各チーム間の連携を基本にした具体的な仕組みを考え、実践した手法を評価したい。カンファレンスでは、その子の「今」を共有する～かかわり方を具体的に考える～実際に関わってみる～その結果を検証し、その子の「今」を再度共有する～というサイクルで、その子にとってなにが良いのか全員が知恵を出し、全員が同じ気持ちを持ちながら実践し、振り返り、丁寧に子どもに寄り添っていった。チーム保育では時として、チーム間の連携が薄くなってしまうこともある。今回の取り組みは、チーム間の連携を強め、重荷に凹んでしまったかもしれない担任を力づけ、つまり園全体の組織力を高めながら、その子にとってより良いアプローチを探っていった。「気づきと意欲を大切に」「一人一人を丸ごと受け入れ、大切に接する」という園の理念が、全職員のチームワークという形で結実した。この、本園らしいあたたかで優しい取り組みをこれからも続け、一人ひとりの子どものよりよい今をつくり出していってほしい。

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
1	サブカテゴリー1
	サービス情報の提供　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している　評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

園の目指す保育について、利用希望者に向けて分かりやすい表現で発信している

どんな理念のもとでどんな目的で日々の保育を進めているのかを、分かりやすい表現で、利用希望者に届きやすい媒体で解説することは、利用者が施設を選択するうえで大変重要なことである。本園では利用希望者向けとして、パンフレットや理念を解説した手紙を用意しているが、いずれも保育の専門的な部分を端的にまとめつつ、きわめて平易に表現されている。そのためこれらは、利用者にとって大変有用な選択情報となっている。実際に入園した保護者からも、理念と実践に乖離がないことが好評であるそうだ。

保育の専門性を発揮しつつ、施設選択の参考となるようHPでの情報発信を心掛けている

自らの理念に基づいた実践情報を、地域の人や利用希望者に向けて発信していくことは、保育理念を理解し共感してくれるサポーターを増やすということでもあり、これは入園後の保護者がより園の保育を深く理解するための大切なポイントである。本園のホームページでは、高い専門性に基づいて記述されている保育コラムや、各クラスの担当による保育の様子ブログなど、こまやかな情報発信を行っている。意匠においても、園の目指す「仏教精神に基づく保育」「気付きと意欲」につなげる心配りが感じられ、良い意味での個性を生み出している。

豊富な園内掲示によって、利用者はもちろん利用希望者に向けても実践内容を伝えている

園内（エントランス、保育室など）には園便りやクラス便り、保育のドキュメンテーション等が掲示されており、ひとたび園内に足を踏み入れたならば、本園が目指している保育やその実践内容、子どもたちの日常の姿までもがよく理解できるであろう。また園見学については、利用者の希望に応じながらも、基本的には主活動の時間に見学を案内することで、子どもたちの普段の姿や保育の実践を具体的に見てもらうようにしている。

2	サブカテゴリー2		
	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6／6

評価項目1
サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園時の説明について、所定のマニュアルや手続きを整備している

利用開始に先立ち、家庭に知らせるべき情報について、重要事項説明書として作成し、入園児に内容を周知したうえで承諾印をもらっている。在園中に内容変更があった場合についても、その内容を書面にて周知し、改めて承諾印をもらうようにするなど、利用者にとって一方的に不利益な変更とならないよう手続き面を整備している。また、園のありのままの日常を見てもらい、施設選択につなげてもらおうといった意図から、見学については原則平日10時から開催している。

丁寧な個人面談を実施し、内容を記録したうえでスムーズな園生活につなげている

入園時には利用者・園児ごとに個人面談を実施し、担任等によって家庭や園児の発達状況、課題等について丁寧に聞き取っている。面談内容は「健康」や「食事」、「言語」などそれぞれの発達面を記録する欄を設けた統一の様式にて記録し、その子どもにかかわる保育者らで内容の共有を図っている。また、この面談については保育者向けのマニュアルを整備し、聞き漏らしや確認忘れがないように配慮している。

保育を修了した後も、子どもや保護者とのつながりを保つように配慮している

卒園児や保護者にとって、馴染みの園舎が10年後もそこにあり、見知った保育者が変わらず接してくれるというのは、私立認可保育所の良い点の一つである。本園においても、実際に卒園した子どもたちや保護者が頻繁に訪れるなどしている。園の側もそうしたつながりを保つことに気を配っており、例えば盆踊りなどの行事に招くために、全卒園児にハガキを出して案内をしている。未就学児を持つ就労家庭の支援というだけでなく、卒園後もほっとできる居場所、心の拠り所として園が地域に根付いているといえよう。

3	サブカテゴリー3		
	個別状況に応じた支援方針作成・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点(〇〇)

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

保護者との連携により、子どもに関する必要な情報をしっかりと把握している

入園時に個別面談を行い、入園面接カードや食事についてのアンケート、健康記録表を利用して、保護者の意向や食事の状況、生活の流れ、疾病・既往歴、アレルギー、身体状況など保育に必要な子どもの情報を把握している。また入園後には保護者に年に1回保育を見てもらった上で、必ず個人面談を実施し、各家庭のニーズや家庭状況の変更等を把握し、その情報を発達記録ソフトに追記している。把握した情報は、職員同士で共有できるようになっており、個々の園児のきめ細やかな対応に生かされている。

発達記録ソフトや保育アプリの活用により、子どもの心身や生活の状況を把握している

子どもの心身や生活の状況は、発達記録ソフトや保育アプリを活用して把握している。生活記録には毎朝の状態や家庭の様子を保護者がアプリに入れ、これを保育者が確認することで子どもの健康面について細かく把握する仕組みができている。また園での生活の様子もアプリを通して保護者に伝え、降園時には保護者がこれをすでに確認している流れができている。保護者と連絡帳以上の情報交換が行われているようだ。子どもの成長に関しては発達記録ソフトを活用して定期的にチェックを行い、個々の課題に応じた保育が行われるようにしている。

長期的な計画から短期的な計画まで、理念に基づき系統立てて作成することを期待したい

法人の保育理念を反映した年間スケジュール表がクラスごとに作成され、そこに保育内容の詳細に記載されている。これをもとに月案や週案が作成されている。３歳未満児クラスでは発達記録ソフトにより個別指導計画を作成している。課題をあげるとすれば、全体的な計画と年・計画と月の計画のねらいの関連性が不十分であった点。長期的な見通しに基づく保育の方向性と、日々の保育の連続性を意識した保育の循環的な過程が子どもの成長を促すことを踏まえ、理念や方針に基づいて系統立てて保育計画を作成することを期待したい。

5	サブカテゴリー5		
	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

個人情報の使用にあたっては最大限の配慮を行い、保護者からも同意を得ている

すべての利用者から入園時に、個人情報使用同意書に押印してもらっており、そこには園だよりやお誕生表等の「園内に貼りだすもの」、ホームページや広報誌の使用等「園外に載せるもの」、「インターネットによる写真販売」とそれぞれについて、同意・不同意を確認している。また子どもの写真に関する取扱いについても、無断使用行為の禁止等園としての遵守事項を挙げ、誓約をしている。子どもの着替えやおむつ替えについても、パーテーションをおくなど人目につかないよう工夫をし、子どもの人権に配慮した保育を行っている。

育児困難を抱える家庭について、全職員への周知や職員研修を実施するなど配慮している

万が一、児童相談所などから通報があるようなケースについては、まずその子どもの心身について十分にケアをし、普段と異なる様子等がないかどうか、注意しながら見守る体制をとっている。育児の難しさを抱える家庭については、個別配慮としてアプリ上での連絡窓口なども常に開設し、保護者の不安を和らげるよう心掛けている。職員一人ではなく全職員で共有・情報周知して伝達して、チームで対応出来る体制をとっている。育児困難については、職員研修や勉強会にも取り組み、研鑽を深めつつ、子どもと家庭を見守っている。

生活習慣の自立へ向け、家庭と連携しながら無理のない援助ができている

一人ひとりの子どもの生活時間に合わせて、午睡の時間なども配慮している。例えば赤ちゃんクラスでは、グループは月齢等で分け、早く寝る子どもに対して食事の時間等の配慮をしている。2歳児ぐらいになると、時間的にゆとりを持ちながらも、生活上の見通しを持てるようになってくるが、苦手な子どもに対しても対応している。排泄の自立については家庭とも連携しながら、その子どもが自分自身の意思でトイレに行き、用を済ませることを喜べるよう、気持ちを盛り上げながら、無理なく進められている。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	5／5

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当

サブカテゴリー6の講評

書式、計画、手引き類を充実し、見直しながら質の改善に努めている

保育に関するものに関しては、指導計画や基準書、手順書など、各種の書類様式が整備され、目次とインデックスによって事務室内にて整理をできている。各種のマニュアル類によって、新入職員であっても迷いなく業務に取り組めるようになっている。また、主に主任・リーダーによって、職員間で分かりにくい点は常に確認しながら、様式の作成、変更などを必要に応じて努めている。

目指す保育の姿、考え方を各書類に端的にまとめ、意識共有に役立てている

日々の保育の中で常に心掛けておきたいことを、各年齢クラスごとに「保育において大切にしてもらいたいこと」という1枚の書類にまとめている。年齢ごとの留意点がでわかりやすくまとめれており、現場での保育の指針として有用なものである。この書式によって、園全体として保育士としてのあるべき姿（子どもを待ってあげる保育、ほめる保育、大声を出さない保育）の共有できており、この共有を土台にして、保育者はそれぞれの個性や独自性を存分に発揮できている。

手書きの良さも残しつつ、ICT化による共有をはかり、適切に書類を整備している

「必要な時に必要なものがすぐ取り出せる」ということを目指し、ファイル共有サービス等の活用を主としたICT化に着手、マニュアル類など必要な情報のスムーズな共有が可能になった。またこうしたICT化と同時に、貼りこみや書き足しで追加ができる手書き書類は、その長所を生かし継続。適切な方法を工夫しながら書類を整備し業務に役立てている。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

	サブカテゴリー4		
	サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1

子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

子どもの主体的な活動が保障できるよう、工夫して保育環境を構成している

乳児期から子どもが主体的に活動できるように、各保育室を基本的に遊・食・寝に分け、遊び・食事・排泄等を発達に沿って支援できるようにしている。また好きな遊びを自由に行えるように棚を設置し、その中に発達に合った玩具を用意し、子どもたちの意欲や興味を引き出す環境構成に力を入れている。保育者は、できる限り大人の枠にはめるのではなく、子どもの「やりたい」「したい」という思をいかに実現させるかという点に注力している。子どもが自分で選んだり決めたりする機会も多く作っており、まさに子ども主体の保育を実現していると言えよう。

子ども同士のトラブルも、自分たちで解決できるように保育者がサポートしている

子ども同士がトラブルがあった時にも、保育者は物理的には介入できる距離で見守りつつもすぐに介入せずに、子ども同士が解決しようとする姿勢を尊重するという。保育者間で共通理解していることは、「大人が先回りしてやってしまわないで、子どもからの発信を待つ」、「大人が白黒を決める裁判官になるのではなく、子どもが自分たちで解決できるように導く」ことだという。言葉を伝えることが苦手の子に対しては、「うれしい」「かなしい」「こまっている」の表情が描かれてある「気持ちカード」を利用して、その都度気持ちの確認を行っている。

年齢区分にこだらない、発達に合った最適な環境が、一人ひとりの成長を保障している

園は、子どもが遊びを選択し、自由に交流することが大切だと考えている。子ども同士の関わりはクラスの枠を越えて、生活と遊びの中で自然発生的に多様な交流が生まれている。例えばブロックが好きな子はそこに集まり、、ままごとで遊びたければやはりそこに自然と集団が生まれる。一方でカードゲームのような「教え、教えられる」遊びでは自然と異年齢の集団が形成される。その集団性が個々に応じた最適な環境となり、子どもたちの学び、気付きへとつながっている。子どもの発達に合った最適な環境が、一人ひとりの成長を保障している。

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

評価項目2の講評

子どもの健康増進のために、一人ひとりの生活リズムに配慮した保育を行っている

子ども一人ひとりの生活リズムに配慮した保育を行っている。例えば早く眠くなる子に対しては、食事も早く食べてもらい、早めにお昼寝をしてもらう。逆にあまり眠たくならない子は、食事の後少しの間保育者と一緒に過ごしてからお昼寝をするようにしている。年長になると、保護者に子どもの体力や生活状況等を相談した上で、お昼寝の有無を決めている。子ども一人ひとりの生活のリズムの安定を図ることは、「児童の健康増進を第一とする保育」という園の保育方針とも合致している。成長発達には欠かせない「健康」という視点を、園は大切にしている。

保護者に向けて、一日の様子や子どもの活動等を保育アプリを活用して詳細に伝えている

保育者が登園時に保護者に対して、直接子どもの様子をきめ細かく確認している。ただ0，1，2歳児は連絡帳の代わりに保育アプリを活用して、前日の夕食の内容、就寝時間や睡眠時間、起床時間、朝食の有無やその内容、排便状況、検温など、詳細な情報をやり取りしている。また保育アプリを活用して全クラス保護者がお迎えに来る前に、当日の活動内容を写真付きで配信しており、保護者がお迎えに来た時には、その内容を共有できるように配慮している。0，1，2歳児は、クラスの活動はもちろんのこと、一人ひとりの園での生活様子を詳細に伝えている。

保育者は、子どもが自ら決めて行動しようとする姿勢を引き出している

園生活では、一斉的な指導・援助ではなく、一人ひとりの自らやろうとする姿を認めることや個人差や発達状態に応じて援助、見守ることを大切にしている。特に幼児クラスにおいて、生活場面での切り替え（遊び→着替え→食事）の際に適切な配慮が見られた。例えばコロナの影響で食事の人数が制限されている中、食事に行く子、食事までの時間を遊びながら待つ子と、子どもたち自身が考えて行動する姿があった。保育者は子どもを次の活動へと急かすのではなく、「どうする？」と問いかけることで、本人が無理なく自己決定できるような働きかけをしている。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
● あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

評価項目3の講評

遊びのコラボレーションを可能にする保育環境を、意図的につくりだしている

保育室では、ゾーンという形で子どもたちが遊び込める環境をつくっている。以前は遊ぶ玩具の種類によりコーナーを設けて区分していたが、逆に明確に分けることで子どもたちのトラブルが増えたという。そうした教訓から「ゾーン」という形で、それぞれの遊び場の境界を曖昧にし、例えば製作や絵本、ブロックなどの遊びが同じ場所で行われることも可とした。一見別々に見える子どもたちの遊びがコラボレーションすることで、予期せぬ遊びへと発展することもあるという。子どもの自由な発想を活かした、保育環境の意図的な創造と言えよう。

大型遊具の導入により、子どもたちの危険回避能力を高め、意欲を育てようとしている

昨年度園庭改造を行い、登る、つかむ、バランスを取るなど幼児期に必要な体力・運動能力の向上を狙った大型遊具を導入した。この遊具には、ロープ状ののぼり棒をのぼれる子しか一番上の階（3階）に行けない工夫がされており、子どもの好奇心・挑戦心を引き出している。また全身をタイミングよく動かしたり、力の加減をコントロールしたりするなど、運動を調整する能力の向上にも寄与している。大型遊具の導入により園は、子どもたちが多様な身体の動きを身につけ危険回避能力を高めるとともに、何事にも積極的に取り組む意欲を育てようとしている。

園が目指す「人のためになる」子ども像を、当番活動等を通して実現しようとしている

2歳児クラスから簡単なお当番活動を始め、幼児クラスへとつなげている。幼児クラスになると、子どもの人数を事務室に伝えたり、朝の会の進行をしたり、昼食のレストランの準備、配膳や盛り付けの手伝いをしたりと、多くのことを行うようになる。異年齢での当番活動なので、主に年長児が模範となり、年少児はこれを学んでいく。子ども同士で話し合い、伝え合いをする中で当番活動を進めていき、自分のやったことが誰かに感謝される体験を積み重ねていく。こうした取り組みは、まさに園が目指す「人のためになる」子ども像と完全に一致している。

4 評価項目4

日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（○○○）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

子どもの興味に寄り添いながら、行事を発達・成長を披露する場として位置づけている

園では行事を、特別なものではなく園生活での遊びを保護者に見てもらう場と考えている。行事を、日常の生活と遊びの延長上に位置付けているのだ。内容についても、子どもが自らやりたいこと・見せたいことを選んで挑戦できるように工夫している。例えば運動会では日々行っている運動遊び（トンネルくぐり・鉄棒ぶら下がり・なわとび・跳び箱など）、生活発表会では、劇あそび・合奏・リズムあそびから、子どもが好きなものを選びチャレンジし、それを保護者に見てもらっている。行事が、子どもの発達・成長を保護者に伝える場となっている。

行事においても、園の基本理念をしっかりと体現している

幼児組の発表会では、3歳児から5歳児クラスまでの異年齢の集団により、劇あそび・合奏・リトミック（ダンス）の3つの表現あそびから興味があるものを自分で「選択する」仕組みをつくっている。この異年齢の強みを生かし、年長児はいずれの演目を選んでも、そのグループを牽引し主役になれるように工夫している。行事においても、教え教えられる子ども同士のタテの関わりを大切にし、「興味をもって行動ができるように意欲を育てる」という園の理念をしっかりと体現している。

5 評価項目5

保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

長時間保育を利用する子どもたちが、思い思いに安心し過ごせるように工夫をしている

長時間保育を利用する子どもは申込制で決まっており、いつもだいたい同じメンバーが利用している。園は、子どもたちが安心して生活できるように、例えばこの時間帯を利用する子ども専用の玩具を用意したり、子どもの遊ぶ場所を保育室以外の廊下でも可能にしたりと、一人ひとりが思い思いに安心して過ごせるように工夫をしている。またふだんの幼児クラスではあまり関わらない子ども同士が一緒に遊ぶこともあり、この時間ならではの新たな人間関係も生まれるという。なお家庭での夕食までの間、簡単な軽食を提供している。

延長保育の時間を、異年齢の子どもたちが関わる場として、効果的に活用している

延長保育の時間を、異年齢の子どもたちが関わる場として、効果的に活用している。乳児から幼児まで同じメンバーが利用していることもあり、幼児クラスの子どもが小さい子に関わって遊びの相手をしてあげたり、逆に小さい子がブロックで作ったものに年長児が驚いたりと、まさに年齢を超えた関わりが生まれている。年長児が赤ちゃんの面倒を見ることもあるという。またこの時間は親のお迎えを待っている時間でもあることから、保育者は子どもが不安な気持ちにならないよう、友達が途中で抜けても楽しい遊びが継続できるように配慮している。

–

–

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

保育者は一人ひとりの状態や嗜好を把握しつつ、食事が楽しめる工夫を行っている

一人ひとりの子どもが落ち着いて生活できるように保育室内を遊・食・寝（遊ぶ場所、食べる場所、寝る場所）に分けてある。このため食事においても子どもは急かされることなく、自分のペースで食事の準備ができる。食事は2歳児クラスの後半から、自分の食べられる量を保育者に伝えてよそってもらう。この時期から自分の好き嫌いや食べる量の把握を少しずつ行っている。苦手なメニューや食材でも少しでも食べられれば、保育者がそれをほめて成功体験につなげているという。一人ひとりの状態や嗜好を把握しつつ、食事が楽しめるよう配慮している。

野菜の栽培や調理体験など直接の体験が、子どもたちの食への興味を引き出している

園の畑で収穫した野菜を子どもの食育に活用している。毎年野菜の栽培を子どもたちと一緒に行い、採れた野菜で調理会を実施する。調理会では、採れた野菜をピザやカレーに入れ、子どもたちとクッキング体験をした上で食べる。また園でお米も作っており、「おにぎりパーティー」を催して、収穫した米を子どもたちと一緒に食べている。2歳児クラスから、そら豆の皮むきや枝豆のさやをとるなど、直接食材に触れる体験を行っている。食材に触れ、栽培やクッキング体験をして食べるという体験は、身近な生活体験からの確かな食育活動になっている。

食物アレルギー児に対しても、事故が起こらない仕組みをしっかりとつくっている

食物アレルギー児に対しては、医師の意見書により除去食申請書を提出してもらい、これをもとに毎月20日前後に園の「予定献立表」に、除去食材に赤ライン・代替食を青ラインを引いて、事前に保護者に確認してもらっている。またアレルギー食（代替食）を提供する当日には、「除去確認表」を書いた保育者と別の保育者が「献立表」を見て「除去確認表」の間違いの有無を確認し、除去ボードにこれを記載する。実際の食事の場面では、アレルギー児を他の子どもと席を別にし、保育者が一緒に座ることで事故が起こらないように対策を行っている。

7 評価項目7

子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

評価項目7の講評

子ども自らが自分の健康・安全に興味を持ち、行動することにつながるよう心掛けている

特に、爪の長さは自他の怪我につながることが多いため、毎朝子どもの爪チェックを実施し、小さな事故を未然に防いでいる。
また、3カ月に一度は保健指導で手洗いの大切さを伝え、子ども自身が自らの健康に興味を持ちつつ、感染症の予防につながるよう心掛けている。また、園庭の大型遊具は、設計段階から子どもの発達によって到達できるゾーンが分かれる工夫がされている。これは、運動動作の育ちのみならず、子ども自身がけがを避けるための危険予測を学ぶ場、という側面もあり、よく練られている工夫である。

医療的なケアが必要な子どもの在園時には、研修を通した事故防止に努めている

乳幼児突然死症候群の予防については、園内での徹底した見回りチェック体制はもちろんのこと、入園時に保護者に向けてパンフレットを配布し、説明して啓発している。食物アレルギーについては、全員除去食対応をとっており、園内での事故防止に努めている。
さらに医療的ケアが必要な子どもが在園している際は、健康管理組合などの専門機関連携のもと、エピペンや飲み薬のシミュレーション研修を実施するなど、安全対策に積極的に取り組んでいる。

園庭だけでなく限られたスペースを最大限に使い、子どもの健康増進につなげている

子どもの大きなケガを防ぐためには、保育者の適切な環境設定による運動遊びによって、日ごろから何よりも子ども自身が自らの体の使い方をよく理解し、危険予測能力を身に着けることが重要である。本園においては、園庭には前述の大型遊具をはじめ、ジャングルジムなど子どもの運動遊びのための環境が豊富である。さらに、天候やスケジュールなどで園庭が使えないときにおいても、室内用の巧技台や平均棒などを活用し、ホールなどにおいて日常的に運動遊びを取り入れることができている。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
● あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
● あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
● あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
● あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

評価項目8の講評

アプリや園内掲示、クラス便り、ブログなど多様な方法で保護者へ発信している

家庭との連絡・発信を多様な形で実践している。例えば園のサイト上のブログでは、保育の視点を平易なかたちで伝えながら、園での子どもたちの様子を保護者に発信している。また、自分で園の様子を説明することが難しい3歳未満児を対象に、アプリを活用して家庭と連絡帳のやりとりをしている。特に悩みが記載されている際には、保育者が個別に保護者に声をかけるという。園内掲示でも、園での子どもたちの姿から保育指針の「10の姿」を解説するなど、保護者の保育の理解が深め、養育力の向上につなげている。

保護者会組織により保護者の園への理解を深め、良好な信頼関係を築いている

保護者支援として特筆すべき取り組みが、伝統ある保護者会「師親会」との協働。師親会では、各クラスから役員を2名程度募り、1年間協力して行事運営などに当たっている。活動にあたっては、就労との両立を考慮し会議時間や頻度なども無理のない範囲で行っているという。例えばバザーでの収益を保育用品の充実に充てたり、役員の経験者が園と保護者間のパイプ役を果たしたりと、師親会はさまざまな方向から園を支え、保護者自身をの力づけてきた。この協働体制は、園が保護者全体との良好な関係を築く上で、大変有用な仕組みとなっている。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（〇〇）		
	評価	標準項目	
	● あり ○ なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	● あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評 #REF!

園内のおまつりやコンサートなど、年に複数回地域の人を招く行事を継続している

現代の保育施設においては、その役割として地域の子育て家庭と地域社会を結びつけるネットワーク基地といった機能も期待されている。これは保育施設にとっても、地域による見守りの目が得られたり、さまざまな地域資源を保育に取り入れるなど、相互にとってメリットのある取り組みである。本園では、地域の人が自由に参加できる催しとして、園内のお祭りなど年に数回の交流の機会を設定し、継続的に取り組んでいる。特に毎年地域の人を招く、伝承遊びの集いは、在園の子ども・家庭と地域をつなげる取り組みとして評価できる。

一時保育での地域子育て支援に、量と質の両面で充実を図るべく取り組んでいる

地域子育て支援の一環として実施している一時保育は、就労家庭向けのもの、緊急・一時的利用、リフレッシュ目的の3つごとに定員を定めている。1日あたり最大15名前後を受入れ、専任担任を6名配置するなど、質量の両面で地域の子育て家庭からの多様なニーズに対応しようと心掛けている。保育内容においても、在園児クラスとの積極的な交流や、園庭での運動遊びなど保育室内にとどまらない活動を展開できている。ともすれば「預かり」に終始してしまうこともある一時保育において、保育の内容においても真摯に取り組む姿勢が大変評価できる。

イベント的な地域交流に加え、日常的な地域交流への一歩を踏み出したい

お祭り等のイベント的な地域交流に加えて、日常的に地域の人が保育に参加したり、子どもを見守ったり、遊びや子どもたちの興味関心のサポートをできるような形になれば、本園の保育はさらに広がり、深みを増すのではないだろうか。本園は「お寺の保育園」として、施設周辺の宅地化が進む以前から地域社会に根付いている存在であり、地域社会における存在感も小さくはない。お散歩時の日常的な地域とのふれあいは既に十分にあることも鑑みると、新たな地域連携へ進むための下地は十分に整っているといえよう。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	1-1-1	事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を周知している
タイトル①	相互信頼に基づく保護者との良好な関係を基盤に、保護者と地域の子育てを支えている	
内容①	本園の保育方針は、「自主性を育てる保育」だが、そうした保育の実践に重要なのが、園と家庭との相互信頼に基づく連携だ。本園では、創立時から続く保護者会「師親会」と連携し、新しい保護者への園の理念の浸透や保護者同士の関わりづくり、保護者の意向の拾い出しを行っている。自分の力で真ん中を歩んでいく子どもを両側で支えるイメージである。本園の保護者会は、利用者の団体ではなく、まさに園とともに子育てを楽しんでいく主体だ。良好な信頼関係に基づく理念共有が、保護者と園を共に力づけ、力強い両輪となって子どもたちを見守っている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル②	一人ひとりの気づきと意欲を大切に、個の力の向上と組織力の向上に努めている	
内容②	「気づきと意欲を大切に」という園の理念に基づく具体的取り組みが、個々の力・やりがい・組織力の向上につながっている。現場の視点から課題を見つけ具体的な環境改善を行った美化委員制度、気になる子に対する接し方をチーム間の連携と協力で探っていった「元気が出るカンファレンス」。いずれも、職員一人ひとりの気づきから立ち上がり、個々の意欲チームワークを高めている取り組みである。チームワークの促進とやりがいの向上が職員のモチベーションを上げ、保育の質を高め、園全体の温かな雰囲気をつくり出している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	保護者が安心して子育てできるような支援につながる、多様な発信方法を有している	
内容③	園の保育方針は、パンフレットやホームページですぐに理解されるものではなく、子どもの日常の姿や成長から徐々に保護者に浸透していく。そのためには、日常的な園からの発信が重要である。本園では紙のお便りだけでなく、アプリやブログなど、多様な手段を駆使している。また、日常保育への理解だけでなく、子育て不安への寄り添いとして「気軽に相談できる」といったアプリの特性を生かし、実際に悩みごとなどがあった際には、丁寧な支援・声掛けによって、保護者が安心し、子育てにポジティブな気持ちをもって迎えるように支援をしている。	

《事業所名：木月保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子ども一人ひとりの興味や想像力を豊かにし、子ども同士の濃密な関わりが生まれるための、遊びのゾーニングづくりを実現している
	内容	ごっこあそび、製作、塗り絵、お絵かき、絵本、積み木・カプラ、ブロック・レゴなど、多種多様な遊具・教材が豊富にある。各所遊びのコーナーは特定のエリアとして設定されてはいるものの、子どもの遊び方はかなり自由であり、保育者もこれを許容している。例えば塗り絵をしながらそれに模したケーキの製作をし、そこからままごとに遊びに発展したり、あるいは積み木のコーナーでスポーツジム遊びをしたりしている。子ども一人ひとりの興味や想像力を豊かにし、子ども同士の濃密な関わりが生まれるための、遊びのゾーニングづくりを実現している。
2	タイトル	どのクラスにおいても職員が穏やかに子どもを見守る姿勢が貫徹できており、子どもたちの遊びの深まりと自己発揮につながっている
	内容	子どもが主体的な生活を通し、遊びの中からさまざまなものを自ら学び取っていくためには、保育者の適切な援助が必要であるが、それは大人からの一方的な指導によるものではなく、ゆるやかに誘い、導くような姿勢が求められる。本園においては、どのクラスにおいても、保育の中で子どもを一方的に指導せずに「見守る」という姿勢が貫徹している。保育者たちは、良い意味で存在感を消しながら、子どもたちの生活の支援者に徹することができている。穏やかで柔軟な大人のかかわりは、思う存分に自己発揮し、遊びを深めている園児の姿に結実している。
3	タイトル	子ども一人ひとりが自分のペースでゆったりと生活できるように十分に工夫・配慮している
	内容	食事においては、小さい子どもから順番に食べられるように食事の時間を長くとる対策を講じている。また1歳児クラスでは食事の後に眠くならない子がいれば少しの時間保育者と一緒に過ごしたり、年長児クラスでは一人ひとりの体力面や生活のペースを家庭と相談した上で、午睡の有無を決めたりしている。ともすると子ども集団を一斉に動かしてしまいがちな園生活の中で、子ども一人ひとりが自分のペースで緩やかに生活できるように工夫しているため、保育がゆったりとした時間の中で展開されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ICTの活用をマニュアル類の精選・改善につなげ、現在の良好な保育を支える、継続的で力強い基盤をつくっていってほしい
	内容	書類・様式に関しては必要なものがそろい、園全体としての共有手段も整っている。その中で、園は、より使いやすく、見やすいものになるようICT化に着手した。更なる改善ということでいえば、すでに取り組みが始まっているICT化をさらに推進し、各クラスで使用しているタブレット端末を活用した、情報共有などの仕組みづくりに取り組むのはどうだろうか。ICTを活用した（現状のさまざまなものの）見直しは、現在の良好な保育を下支えする力強い基盤になることだろう。
2	タイトル	「何のために」という保育の意図性・志向性を計画の段階から明確にした上で、よりダイナミックで独自性のある保育の創造に期待したい
	内容	子どもの行動を先回りしたり急かしたりするような保育者の声かけがほとんどなく、個々の子どもの興味を引き出すゾーンの環境づくりを実現している点は高く評価できる。しかし一方で何をねらいにして、子どもの遊びを展開しているのかが見えにくい。保育計画においても遊びの事柄の記載はあっても、それを通してどういった発達を保障するのかという視点が不十分であった。今後は園全体の保育の質をより高めるために、「何のために」という保育の意図性・志向性を計画の段階から明確にした上で、よりダイナミックで独自性のある保育の創造に期待したい。
3	タイトル	園の目指す大きな目標である「子ども像」を日々の保育のテーマに合わせかみ砕いて、具体的な計画をたて共有していってほしい
	内容	園は理念とともに「人との調和・対話のできる子ども」「人のためになる子ども」「自主的に行動できる子ども」という具体的な子ども像を掲げ、そのための行動指針ともいえる「子どもと職員のルール」も示しており、これがいわば本園の長期計画ともいえるものだ。実際、「お手伝い保育」など、こうした子ども像を具現化する取り組みも自然と行われている。今後、自らの保育を自覚しながら保育の質をより高めていくために、今後は、この大きな計画を日々の保育のテーマに合わせてかみ砕き、具体的な計画とし、より意識的に取り組んでいってほしい。